

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 44

学校名・団体名	中津川市立苗木中学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	地域への愛着を育み、地域に貢献する生徒の育成

〈活動・研究の意義および活動報告〉

本校は、鉱物博物館や苗木城などの文化的な施設や歴史的な遺産のある教育資源に恵まれた地域にある。この地域の人口は2000年をピークに減っている。現在の人口は6262人で、2000年と比べ人口が約4%減少している。また、高齢化率も高く24%～28%である。こうした地域の状況を考え、地域のまちづくり協議会と連携しながら、地域とともに活動してきた。今までは地域の「行事に参加」（＝「受け身」）をする姿勢であったが、本年度は、生徒が「事業の創造」（＝「主体的」）をすることに力を入れた。生徒が主体的に地域にかかわる活動（「事業」）を行うことで、企画力、提案力、発信力が身に付き、さらには地域に愛着もつ生徒が生まれてくると考え、本研究に取り組んだ。

1 教科の授業を通して地域を知る

生徒が主体的に事業を創造するには、生徒が地域のことを「知る場」をつくる必要がある。そうした場は総合的な学習の時間だけではなく、教科にも位置づけ、毎年生徒が「何を知っているのか」を明確にしていくことが大切であると考えた。そこで本年度は、1年生理科の単元「大地の変化」に位置づけ、断層や大地のなりたちについてバスを使って地域をまわり実習した。また、美術の時間を利用し「観光ポスターの作成」をしたり、国語で地域を素材にした「俳句」に、地域の祭りを彩る「あんどん絵」の作成をしたりするなど、教科の学習の時間に地域を知る活動を位置づけた。

（1）苗木の大地のなりたちと地域の断層の観察（理科）

この地域には、特徴的な地形があり鉱物が産出される。その特徴は、この地域の産業や人々の生活に影響を与えている。鉱物博物館があり、岩石や鉱物が展示されている。また、近くに断層があり、地域で起きる自然災害を知る上では重要である。そこで、鉱物博物館の学芸員さんに指導をしていただきながら、理科の授業で実習を行った。



（2）地域の観光ポスターやあんどん絵の作成（国語、美術）

JR中津川駅のステーションギャラリーに展示する観光ポスターを美術の時間に作成した。展示することで、市役所の方をはじめ、地域の方など多くの方から声をかえてもらったり、観光に貢献していることを表彰してもらったり、自分たちの作品が観光客や町の人たちに影響を与えていることを意識する活動となっ



た。生徒達にとっては、ただ作品を展示するという事以上に、社会にはたらきかけ参加することの意義や意味を見いだす活動となった。

毎年、地域の祭りで披露しているソーラン踊りも生徒にとっては貢献をすることの意味を考える機会となっている。こうした活動を3年間継続的に行うことが、生徒たち自身にさらなる活動(事業)を創り出す力となっていく。

2 企画力、提案力、発信力を育む

3年生未来プロジェクトとして、「誇り創生」「学校創生」

「苗木世代交代」「地域貢献」の4つのプロジェクトを企画した。

この中で「地域貢献」プロジェクトでは、今まで様々な活動を支えてくださった地域の方々に感謝して卒業できる事業を立ち上げることにした。まちづくり協議会を通して地域の皆さんに提案し、地域のコミュニティーセンターで『地域 Thank You コンサート』をすることにした。そのために、宣伝ポスターの作成・掲示、チラシの作成・配布、地域のホームページによる宣伝の依頼など地域の方を巻き込んだ提案を行った。そして2月には、地域の方、地域の老人ホームの方、保護者など多くの方がコンサートを見に来てくださりました。



【地域の方の声】

小学生からの地域へ貢献に感謝します。花壇作り、風流踊り、研修旅行での観光PR活動、そして、今日のThank you Concert等地元もこれから20年後、30年後の姿をどうするのかを検討しております。これからは、苗木を飛び出して、他の世界を勉強して下さい。そして、広い視野を学んで苗木に帰ってきて下さい。そして、更に苗木が豊かになるようにして下さい。今日はありがとう。



【最後に遅れて参加した老人ホームの方からのアンコールを受けた生徒の感想】

老人ホームのおばあさんが、「すごいがんばったんやね！すごいよ。これからもがんばって！」と握手をしてくれて、はじめは、びっくりして、おどおどしてしまっただけ、力強く手を握ってくれて本当に嬉しかったし、やってよかった！と思いました。今日は、本当に嬉しいことが多かったです。

3 これから期待される活動

(1) 生徒が事業を創造するこの活動への地域の期待は大きくなっている。今後、地域資源(人材、施設)の開発や活用をすすめていき、生徒の活動を地域で支えていく環境を地域とともに作っていき、生徒の主体的な活動を後押ししていく。

(2) 生徒が主体的に活動するために、生徒が地域に対するどんな知識や理解が必要なのかを明確にし、カリキュラムを編成していく。

(3) 生徒が主体的に行動することで、自分たちの活動や想いを発信していく姿を作り出していく。(右の写真は、少年の主張で地域のことを語ったことが記事になったもの)

